



## RI 会長メッセージ

# 手を貸そう

## 親愛なる同僚ロータリアンの皆さん

今の私たちの世界では、幾百万という人々が、貧困のどん底生活をしているのです——彼等の胃袋は空っぽです。彼等の胸には絶望以外なものもありません。世界の最も貧しい国々では、男も女も着るものが無くて文字通りボロをまとっています。子供達はハダカで走り回り、そのやせ衰えた身体

は栄養失調の典型です。健康管理にも教育にも全く無縁ですから、病気と無知にさいなまれ、次の世代も、よりよい暮らしへの希望など全く持てずに育ってゆくのです。

大部分のロータリアンは比較的快適に暮らせる幸運に恵まれています。今日の「地球村」では、戦争、飢饉、自然災害の影響がこの惑星上の至る所に止めどもなく押し寄せ、平和な世界への道をふさいでいます。かくも多くの世界に起こる騒動に火をつけ更に油をそそぐのは、貧困から生まれる絶望なのです。ですから、いやしくも私達が平和という究極のゴールに到達しようとするなら、私たちロータリアンはまず希望を与えなければなりません。2003-04年度、私はロータリアンの皆さんに、真っ正面からこれに挑戦して貧困を減らすことを、第一番の目標とされるようお願いいたします。

この運動の重要戦略は女性に対する教育でなければなりません。途上国世界の大部分を通じて識字率は女性の方が男性よりはるかに低いのです。こういう教育資産の不均衡から、一般的に子供の教育に対する女性の責任が軽視されることとなります。読み書きできる女性は、その技量を子供たちに伝え、そして次の世代がまた更に高い識字力を身につけるようになる事は間違いないでしょう。

私たちはまた、小口金融プロジェクトによって貧困と戦うことができます。これは小規模の新規事業を立ち上げようとする場合——主として女性ですが、多くの場合通常の融資になじまぬ人に、小額金融の道をつけるものです。たとえ US100ドルの少額でも、こうした駆け出しの素人企業家達は、貧困の悪循環を断ち切って家族を養うことが出来るようになります。小口金融が成功すればその成果として地域社会全体が、何もないハダカ暮らしから明るい未来へ向かって希望の持てるものになって行くのです。

2003-04年度、国際ロータリーは、ロータリー百年祭の一環として双子クラブのプロジェクトに着手します。このプロジェクトは、貧困が私たちの世界に引き起こしている惨事を少なくしよう、ということで提携するクラブに絶好の機会を与えるものです。世界社会奉仕とロータリー財団の人的補助金を通じて、私たちは苦しみをやし、希望と安定と、平和への新しい機会をもたらすべく、海を越え国境を越えて仕事ができるのです。

私は2003-04年度において、根元的な会員増強という焦点をはずしてはならぬと確信しています。また新しい会員を引き入れても私たちが何もせず、彼等を活動的にし有意義なプロジェクトに巻き込む事を怠っては意味がありません。私たちは彼等をクラブに馴染ませ、彼等が親密で頼りになるロータリー家族の一員であると感じるようすべきです。

更にまた私たちは、資格の有る男女とロータリーを分かち合う責任をないがしろにはいきません。この点に関して特に私は、クラブがもっと女性会員を増やす様に奨励したいと思います。事業や専門職に従事する女性指導者の数は急速に増え続けていますが、ロータリーにおいては悲しむべきほど少ない数です——女性は全会員数の10%にも満たないのです。そして20

以上の国のクラブではまだ女性会員が一人も居りません。1989年以降ロータリーに加入した女性たちは会員数の維持、下振れ防止の力となり、クラブの奉仕活動を大いに強化し、そして国際ロータリーに対してもまた同様目覚ましい貢献をしました。この最初の10年間に女性会員が果たした有益な役割を認めて、2001年の規定審議会とRI理事会は、両性クラブの推進を奨励する事にしました。実際に国際ロータリー細則には、いかなるクラブも性別によって会員を制限してはならぬと具体的に明記されています。今や適格な女性を積極的に探し求めて会員に迎え入れることは、クラブ・レベルにおける会員の義務です。

2003-04年度、私たちが奉仕の道に導くために、私は全ロータリアンに**手を貸そう**と呼びかけています。これは単純なテーマではありますが、しかしロータリー奉仕の真髄を雄弁に語るテーマだと確信します。ロータリアンとして私たちは、地域社会やまた世界に対して常日頃、**手を貸しています**。私たちは私たちのクラブ会員や、また海外にあってその地域社会の問題に取り組み援助を求めている同僚ロータリアンに**手を貸しています**。この単純な仕草が時として一人の人間の人生を変える要件のすべてともなるのです。またそれとは違って、一本の手が多数の手となることだってあります……ロータリアンが互いに協力し合ってポリオを根絶させたり、識字力を向上させたり、低価格住居を供給したり、また紛争を解決し、数多くの人々の苦しみを和らげたり……とすることになるのがそれです。どこにあって必要とあれば助けてあげる、というのが私たちロータリアンの本性です。そこで2003-04年度、私はロータリアンの皆さんに、**手を貸そう**という機会を更に多く、自ら進んで探し出すようお願いします。

さあ皆さん、助けてあげねばならぬ私たちの兄弟姉妹に、進んで私たちの手を差し伸べて、2003-04年のロータリー年度を始めましょう。相共に働き続けても、ロータリー援助の手に、これでおしまいということはあり得ません。

ジョナサンB. マジアベ  
2003-04年度国際ロータリー会長

### **あなたのクラブに手を貸そう**

会員組織の強化を助けて：クラブの全会員に対し、彼等がグループにとって重要な貢献をするのになくはならぬ一員であることを感じさせ、組織維持に専ら力を集中してください。会員たちの福祉に関心を示し、病気やその他の問題で悩んでいる会員に援助の手を差し伸べ元気づけてやってください。亡くなった会員の配偶者には絶えず親身になって接し、彼等がロータリー家族の一員として留まってくれる様にしてください。

### **あなたの天職に手を貸そう**

高い倫理規範を保持し他の人々にもそうさせることによって：あなたの専門的知識や技術を生かして、それを必要としている人々を助けてください。若年労働者たちを指導し、職業において向上する様援助してください。服役者に職業技能を伝授し、自由の身になった暁に実りある生活を送れる様備えさせるプログラムを開発してください。

### **あなたの地域社会に手を貸そう**

極度の窮乏に瀕している人々を助けて：食糧、衣料、住居を供給し、貧困社会層みんなの生活の質を改善し、危険な状態におかれている子供たちにより良い人生のスタートを切らせる様なプロジェクトを開発してください。識字能力を高めることに努め、職業訓練を施し、失業している大人たちが収入のある仕事に就けるだけの技能を身につける様援助活動を推進してください。

## 世界に手を貸そう

文化、民族、宗教の異なる全ての人々に手を差し伸べることによって：あまりにも多くの人々を苦しめ、また平和への道を妨げているどん底の貧困を少なくする為に、国際ロータリーとロータリー財団の諸事業を通じて尽力してください。女性教育、人口問題への取り組み、小口金融プログラムの策定、世界における最貧困層に対する基本的な生活条件達成のための援助、という諸事業を完遂するために、あなたの双子クラブに参画してください。

## ジョナサンB. マジリアベ氏の経歴

ジョナサンB. マジリアベ、ナイジェリア、カノ

2002-03年度国際ロータリー会長エレクト

2000-02年度アフリカ地域ポリオ・プラス委員会委員長

2001-02年度世界問題委員会委員長

2000-01年度国際ポリオ・プラス委員会委員

1993-96年度ロータリー財団管理委員

1988-90年度国際ロータリー理事



ジョナサンB. マジリアベ氏は、ナイジェリアの上級弁護士であり、ナイジェリア国内で広く商法を扱うJ.B.マジリアベ・アンド・カンパニーの主任顧問です。ラゴスに生まれ、ロンドン大学を卒業しました。

マジリアベ氏は、ベンチャーズ名誉団体の会員で、カノ州、暫定司法サービス委員会の元委員、元ナイジェリア法曹協会副会長であり、ならびに国際法曹協会の会員でもあります。また、カノ・レバノン・クラブおよびカノ・クラブの管理委員を務めています。氏は、長年英国国教管区の宗教法顧問（チャンセラー）を務め、現在は、ナイジェリア赤十字社、カノ支部の委員長です。またカノ商工鉱業会議所の会員でもあります。

マジリアベ氏は、1967年以来のロータリアンで、カノ・ロータリー・クラブの会員、元会長です。国際ロータリーの地区ガバナー、国際協議会研修リーダー、委員会委員、理事、ロータリー財団管理委員を務めました。ロータリー財団功労表彰状および特別功労賞を受賞しています。

アフリカ地域ポリオ・プラス委員会の委員長、ならびに国際ポリオ・プラス委員会の委員として、マジリアベ氏は、ポリオ撲滅のための全世界での活動に貢献しました。

### マジリアベ会長夫人 アデ・マジリアベ女史ご逝去のお知らせ

ロータリアンの親友の皆様

RI 事務総長 エド・フタ

アデ・マジリアベ、ジョナサンB. マジリアベ会長夫人が6月6日に逝去されたことをお知らせ致します。葬儀は6月13日(金)午前11時30分から、ロンドンのストックスニュートンの聖アンドリュース教会で行われました。

会長へのお悔やみはロータリー本部会長事務所へお送り下さい。

メモリアル寄付はロータリー財団経由で「アデ女史の女性と子供の為の教育ファンド」にお送り下さい。